教職概論（中高）　　布村 育子

授業概要

第８回目までは、主として過去の時代背景との関連から教職の意義を講義する。第９回目以降は、今日の教職の意義を講義する。第 14 回と第 15 回は、教職と本授業の関連性を確認しつつ、全授業を振り返る作業を行う。授業を通して、教職の意義・教職を規定する法制度・服務等、教員に必要な基礎的な知識を説明し、教職とは何かを理解できるようにする。

授業計画

第 1 回	授業ガイダンス　授業内容の説明・授業方法の説明
第 2 回	教職の意義①（教員養成は、なぜ大学で行われるのか）
第 3 回	歴史の中の教師像①（森有礼の教師像と時代背景）
第 4 回	歴史の中の教師像②（アメリカ教育使節団の教師像と時代背景）
第 5 回	歴史の中の教師像③（第三の教育改革以後の教師像と時代背景）
第 6 回	小説の中の教師像（同僚性及びチームとしての学校の描かれ方）
第 7 回	ドラマの中の教師像（同僚性及びチームとしての学校の描かれ方）
第 8 回	教師に求められる資質能力（戦後の答申に示された資質能力）
第 9 回	教職の意義②（教職の専門性及び専門職性とは何か）
第 10 回	教職の意義③（養成、採用、研修の意義）
第 11 回	学校の中の教師（校務分掌の機能、教育委員会の管理機能、チームとしての学校）
第 12 回	社会の中の教師（保護者との連携、学校と地域の連携、労働者としての教師）
第 13 回	法制度と教師（教免法、地公法、教特法、地教行法、中確法等に規定される教師）
第 14 回	未来の教師像（これから必要となる資質能力は何か）
第 15 回	教職とは何か（授業内容と自分が目指す「教職」との比較）
第 16 回	定期試験

到達目標

教職の意義・役割・職務内容・求められる資質能力・研修の在り方等を十分理解し、個人的な観点からのみ教師を捉えるのではなく、組織の中の教員という視点から、その役割を理解する。学びの過程で、教職に就こうとする自らの適性を判断し、課題を見つけ克服する姿勢を身に付ける。

履修上の注意

第 1 回のガイダンス授業の際に、授業方法・評価方法・予習・復習について詳細に説明する。成績評価に関わる内容であるため必ず出席すること。なお、第 1 回目の授業に出席できない特別な理由がある場合（あった場合）には申し出て、配布資料を必ず受け取ること。

予習・復習

予習：授業の最後に示された次回の内容について、関連する文献等を読んでおくこと。
復習：毎回の授業で出題された課題を確認し、理解ができていない場合には、プリントに示されている参考文献等をもう一度確認しておくこと。

評価方法

受講態度 10%・提出物の内容 10%・学期末のテスト 80%を基本とし、総合的な観点から評価を行う。教職に関する科目のため、成績評価は厳しい態度で行う。なお、履修者の状況によっては中間テストを行う場合がある。評価方法の詳細は、第 1 回のガイダンス授業で説明する。

テキスト

毎回プリントを配布する。教育法規（特に教育基本法、学校教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、学校保健安全法、地方公務員法、教育公務員特例法）を適宜参照する。